

令和7年産 コメ通信

第8号（令和7年7月25日）

【発行】
北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

出穂早い！！登熟を促進する水管理を！

1 気象経過と生育状況

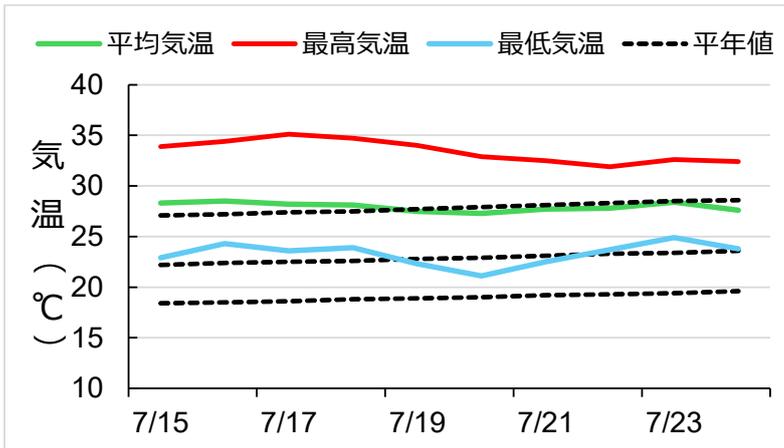
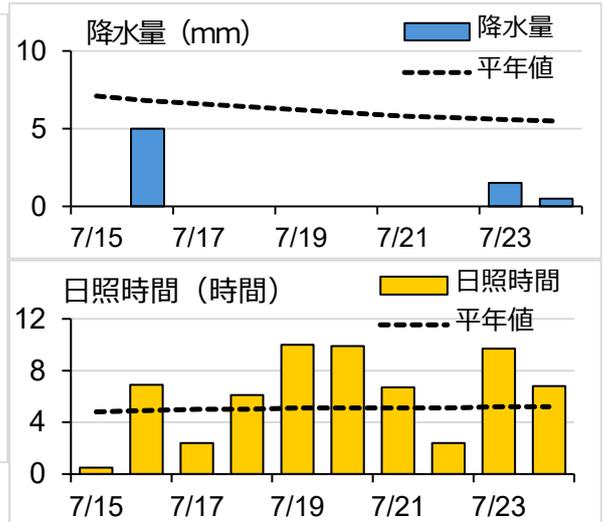


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）



【気象経過】

- 7月15日～24日にかけて、気温は最低、最高、平均ともに平年より高く推移しました。曇りや雨の日が少なかったため、降水量は少なく、日照時間は多くなりました。
- 仙台管区气象台発表の1か月予報（7月24日発表）によると、向こう1か月の東北地方日本海側の天気は、気温は高く、降水量は平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されています。

【生育状況】

- 7月25日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は平年と比べ草丈が長く、茎数が少なく、葉色がやや濃くなりました。全てのほ場で減数分裂期を過ぎており、生育の早いほ場では出穂期を迎えています。
- 本年は茎数が不足していることから、穂数が少なくなる見込みです。適切な水管理により、籾の充実を図りましょう。

【出穂期の予測】

- 日平均気温から算出したあきたこまち（中苗）の出穂期は、5月20日植えて7月27日頃（平年値8月5日）となっています（表2）。
- 25日時点で、多くのほ場において走り穂が見え始めていますので、次ページを参考に水管理や適期の病虫害防除を行ってください。

表1 定点調査結果（7月25日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色
本年	85.7	481	12.9	39.6
平年	76.1	503	12.6	38.7
前年	83.7	517	12.9	43.3
平年比	113%	96%	+0.3	102%
前年比	102%	93%	±0.0	91%

※平年は過去10か年の平均値を示す。

※葉色はSPAD-502で測定した。

表2 あきたこまち（中苗）の出穂期予測（アメダス鷹巣）

田植日	出穂期（平年値）
5/15	7/24(8/3)
5/20	7/27(8/5)
5/25	7/29(8/7)
5/30	8/1(8/10)

※7月24日以降は平年値で計算した。

※出穂期：全茎数の40～50%が出穂した日のこと

2 当面の水管理

- 茎数が平年よりも少ないほ場が多く見られます。登熟の促進によって籾を充実させるために、水管理を徹底し、稲の活力を維持しましょう。
- 出穂期までは間断かん水が基本となります。出穂期から開花期は水を多く必要とする時期なので、出穂後10日間は湛水状態にして水を切らさないようにしてください。
- 用水を十分に確保できる地域では、気温が30℃を超える暑い日に向け流しかん水等を行うことで地温を下げ、根の機能減退を防止しましょう。
- かけ流しかん水が困難な地域では、開花期後は落水期間の短い間断かん水や午前にかん水するなど、水分供給と地温の低下に努めます。
- フェーン現象などで乾燥した風が強く吹く日は湛水状態を保ち、水分蒸散による稲体の消耗を軽減します。
*水深が浅い場合、水温が上昇しやすくなるため、水深はしっかり確保しましょう。
- 早期に落水すると葉色の低下や枯れ上がり、根の機能減退に繋がるため、落水時期は出穂後30日以降とします。

<水不足等で用水の確保が難しい場合>

- 溝切り跡への通水等により、土壤水分を補充し、夜間の地温低下を図ってください。
- 穂揃期の前後は稲の吸水量が大きいため、かん水不足で稲が萎れないよう注意します。
- 用水が地域全体に行き渡るよう、こまめな水回りを行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに水口を止めるとともに、漏水がないよう畦畔の補修に努めましょう。
- 地域農家や関係機関と協力して節水管理に努め、入水時間を申し合わせるなど、計画的な用水の供給に努めましょう。

- カドミウム含有米の発生防止対策地域で、「あきたこまちR」以外を作付しているほ場では、出穂期3週間後まで湛水管理を継続し、カドミウムの吸収を抑制してください。

3 主要病害虫の防除対策 ～ドリフトに注意！～

※飼料用米も主食用米と同様に、病害虫防除を行ってください。

※生育が早まっているため、防除のタイミングを逃さないようにしましょう！

【いもち病】 ～多くのほ場で病斑が確認されています～

- 県北部で平年よりも葉いもちの発生量が多く、穂いもちの発生が懸念されるため、7月25日に病害虫防除所よりいもち病の「防除対策情報」が発表されています。
- 既に病斑が上位葉に進展しているほ場も見られます。ほ場の見回りを徹底し、病斑の早期発見に努めてください。
- 葉いもちの発生がある場合は、穂いもちの防除として出穂15～7日前にコラトップ剤（粒剤・豆つぶ剤）またはゴウケツ/サンブラス粒剤のいずれかを散布するか、出穂直前にトライフロアブルまたはビーム剤を、穂揃期にトライフロアブルまたはラブサイド剤の茎葉散布を行います。
- 葉いもちが多発しているほ場では、上記に加えて傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行ってください。
- 用水が確保できないほ場では、茎葉散布剤を選択して防除を行ってください。

◆農薬の使用回数に注意！

本田での防除薬剤の使用回数は、トライ剤の成分であるテブフロキンで2回、ラブサイド剤の成分であるトリシクラゾール及びビーム剤の成分であるフラサイドはそれぞれ3回以内となっています。総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。

【斑点米カメムシ類】

- イネ科雑草が出穂している畦畔で斑点米カメムシの発生が多いことから、7月18日に病虫害防除所より斑点米カメムシの「防除対策情報」が発表されています。斑点米カメムシの被害を抑えるために以下の対策を実施してください。
- スタークル/アルバリン剤を出穂10日後頃に畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布し、その後7日以内に農道や畦畔の草刈りを終えます。
- 出穂したノビエやホタルイなどのカヤツリグサ科雑草が見られるほ場や、イネ科植物が主体の牧草地や休耕田等に隣接しているほ場では、出穂期24日後頃にキラップ剤(使用時期は収穫14日前まで)またはエクシード剤(同7日前まで)を、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布します。
- 法面や休耕田等の雑草地では収穫2週間前まで草刈りをしないでください。
- 近隣に水稻以外の作物(野菜等)がある場合や養蜂業者がいる場合は、薬剤散布前に情報交換を密にして散布を実施してください。

	薬剤名	希釈倍数	散布量 (/10 a)	散布時期
1回目	スタークル粉剤DL アルバリン粉剤DL	—	3 kg	出穂期 10日後頃
	スタークル液剤10 スタークルメイト液剤10	1,000倍	150 L	
	キラップ粉剤DL エクシード粉剤DL	—	3 kg	
2回目	キラップフロアブル エクシードフロアブル	2,000倍	150 L	出穂期 24日後頃

【紋枯病】

- 一部のほ場で既に病斑が確認されています。前年収穫期に発生が多かったほ場では、ほ場の見回りをし、株元に病斑がないかを確認してください。
- 穂ばらみ期～出穂期の発病株率が15%を超える場合は、下表の茎葉散布剤を稲体の株元に到達するように散布してください。

種類	薬剤名(農薬成分回数)	散布時期	使用量・希釈倍数
茎葉散布剤	バンタック水和剤75 (1)	出穂直前 ～穂揃期	粉剤・DL: 3~4 kg/10a 液剤: 1,000倍 水和剤: 1,000倍 [60~150L/10a] フロアブル: 1,500倍 ゾル: 800~1,000倍
	バンタックゾル (1)		
	バリダシン粉剤DL (1)		
	バリダシン液剤5 (1)		
	モンカットファイン粉剤20DL (1)		
	モンカットフロアブル (1)		
	モンセレン粉剤DL (1)		
モンセレンフロアブル (1)			



紋枯病病斑(株元)

4 お知らせ

カドミウム汚染米発生を防止しましょう！！

- 「あきたこまちR」以外の品種を作付しているほ場では、出穂前後3週間の湛水管理を**必ず実施**してください。
- JA・主食集荷商業協同組合加入業者**以外**の集荷業者や消費者へ直接販売する場合は、出荷前にロット調査によるカドミウム分析を各自で実施してください。



詳しくは↑

農作業中に熱中症になる人が増えています。こまめな休憩や水分・塩分の補給、帽子・空調服の着用などの対策で、熱中症を予防しましょう。

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで～次回発行は8月中旬頃～